

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立川登中学校
1 前年度 評価結果の概要	評価項目の12項目中9項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。 ・「めあて」「協働学習」「まとめ」をキーワードに研修を進めるとともに、学習内容の理解を深めさせるための視覚的な教材・教具を準備をしたりするなどの特別支援教育を充実させる。 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成のために、家庭学習を充実させ、学校と家庭とで連携した取り組みを行う。 ・生徒が夢や目標をもって何事にも取り組むことができるように、総合的な学習の時間や学校行事をこれまで以上に充実させる。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	(1) 確かな学びの充実 (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 主体的な活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。	○教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。	C	・成果指標の達成率アンケートで、「あまり達成できていない」が半数以上だった。マイプラン推進の呼びかけがあまりできていなかったため、毎月の職員会議などで啓発を図りたい。	A	・マイプラン推進の呼びかけを数回行い、学校評価アンケートの結果では83.3%の職員が推進状況に肯定的な回答だった。	A	・今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、学校に来て生徒たちの様子を見るのができなかった。評価の難しさを痛感する。しかしながら、リモート等で工夫をしながら共通実践されていることは評価できる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎・基本の習得と活用を図る指導	○『めあて』の提示を工夫し、『協働的な学習』を取り入れたことで、自分の考えが深まったり広がったりした」に、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	○授業づくりにおいて、以下の3点について行う。 1)『めあて』の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 2)『協働的な学習』については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。 3)『まとめ』については、『めあて』と対応したものを明確に示し、納得できるようにする。	B	・数学、社会では「協働的な学習」への取り組みが進められている。国語では、学習の振り返りを具体的に書く生徒が増えてきている。 ・校内研究では「めあて」や「学習課題」の重要性について共通理解を図ることができた。協働学習は、コロナの状況を見ながら今後取り組んでいく。	A	・各教科等、めあてや学習課題を工夫し、理解や思考の深まりを目指して取り組んだ。しかし、下位生徒の支援や協働学習の取り組みが思うように進まなかった。 ・「グループでの話し合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。」との質問に肯定的な回答をした生徒は、83.5%だった。先生方の取組の効果がでてきていると考えられる。	A	・本項目についても、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、学校に来て生徒たちの様子を見るのができなかったため、評価は難しかった。タブレットや電子黒板等を活用しながら、基礎基本の習得を図られていると思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。	○学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を学期の当初に年2回設定する。 ○生活習慣アンケートを行い、改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。	○学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を学期の当初に年2回設定する。 ○生活習慣アンケートを行い、改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。	B	・自学ノートは全体の90%以上の生徒が毎日提出できている。テスト時は学習計画と記録を書かせ、学習方法や時間を振り返らせている。 ・小中連携で生活アンケートを実施し分析した。	B	・宿題等の提出状況は、改善の方向に向かってはいるが、昼休みなど学校でしているケースが多く、家庭学習が定着しているとはいえない。 ・「平日の家庭学習時間を2時間以上」実施している生徒は57%であった。今後は、家庭学習時間が伸びない原因を検討し、具体的取組につなげる必要がある。	B	・学校からの発信も大切。今後に期待したい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研修会を年1回以上実施する。	○道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 ○講師招聘による「考え・議論する道徳」に関する職員研修会を行う。	B	・ふれあい道徳や授業参観などで全学級「道徳」の公開を行った。また、内容項目にのっとり授業実施を進めている。 ・講師招聘による研修会は2学期に実施予定である。	A	・全学級で「道徳」の授業の実施ができた。年間を通して内容項目に沿った授業の実施ができた。生徒のアンケートでは86%が考えの深まりや広がりができた肯定的な回答をした。 ・講師を呼んでの研修会は新型コロナウイルス感染症の流行により、実施できなかった。	A	・昨今、道徳の重要性を痛感する。豊かな心の育成を図るため、より一層、道徳の授業の充実が望まれる。 ・授業だけでなく、学校生活全般でも道徳性を高めるような指導を行ってほしい。	・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を80%以上にする。	○早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、共通理解する会議を月に1回設ける。 ○いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。	A	・学年主任を中心に組織的に対応することができている。月に1度は生徒の変化や様子について、全体で共有する場を設けている。また、随時生徒の情報交換を行い、対策について検討し、実践することができた。今後は継続していく。	A	・学年主任を中心に、臨機応変に素早い対応をとることができた。また、生徒の様子を全体で共有することで、85%の教員が学年を超えて組織的に対応することができていたと回答した。	A	・いじめで自ら命を絶つような事件が起きていない。本校でも悲しい思いをする子供がいないように、学校全体でしっかり見守ってほしい。	・生徒指導主事
	◎生徒が夢や目標をもち、実現に向かう教育活動の推進	○将来の目標や夢を持つ生徒80%以上にする。	○1年生においては、職場見学を実施する時に、2年生においては、職場体験を実施する時に、3年生においては、3年生を中心に全学年において立派な実施する時に、将来の目標や夢を確立させる。 ○1月に、全学年の生徒に今年の目標を決定させ、夢を実現させるためには、どのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しを持たせる。	○1年生においては、職場見学を実施する時に、2年生においては、職場体験を実施する時に、3年生においては、3年生を中心に全学年において立派な実施する時に、将来の目標や夢を確立させる。 ○1月に、全学年の生徒に今年の目標を決定させ、夢を実現させるためには、どのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しを持たせる。	A	・1年生は職場見学の受け入れ先がなかったため、社会見学として11月に実施予定。 ・2年生では職業講話を実施し、本物の職業人から働く意味や意義を学び、自分の将来を考える良い機会になった。 ・3年生では各高校の説明会や体験入学を通して、具体的な進路先について考えるきっかけとなった。	A	・1年生は社会科見学を通して仮装について深く学んだ。また、職業調べ活動を通して、すべての生徒が将来の夢や職について考えをもつことができた。 ・2年生では職業について学んだ後、上級学校について調べ、近い将来について現実的に考えながら、レポートにまとめている。 ・3年生は進路学習や教育相談等を通して、志願先の決定を行うとともに、将来の夢を具体的に考えることができた。	A	・夢や目標をもつようになるための教育は難しいことだと思うが、2・3年生が80%を超えてほしい。 ・以前は立派な将来の夢を語っていたが、目の前の高校入試だけで、広い視野をもって将来のことを考えることのできる子供を育てていかなければならない。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食を毎日食べている生徒の割合を95%以上にする。	○朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を学期に1回以上行う。 ○月ごとに食育日よりなどで家庭への協力を呼び掛ける。	A	・朝食を毎日食べている生徒の割合は、6月の調査では92%と目標値にかなり近い。生徒はもとより、家庭への協力をさらに呼び掛けていきたい。	A	・朝食を毎日食べている生徒の割合は、12月の調査では91.5%と前回とほとんど変わらない。全く食べていないと答える生徒は2.8%であった。	A	・本校では朝食をしっかり食べている子供が多くて安心した。まったく食べていない生徒が気になる。そのようなことがないように、家庭も含めて指導の必要がある。	・食育・給食担当
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生徒の割合95%以上にする。	○顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 ○臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。	B	・コロナ禍で保護者会の開催が難しい時期もあったが、便り発行等で連携できた。 ・「部活動が充実している」と答える生徒は76%。職員の協力により臨場指導が多くなってきた。今後は主体的な取り組みを高めたい。	A	・コロナ禍で、保護者会の開催が難しい時期があったり、大会の中止や練習試合が十分にできなかったりした。 ・校内での活動は、時間や場の工夫で活動できた。生徒の主体的な活動が増えればさらに充実してくる。	A	・大会ができなくても工夫して活動ができれば充実感は味わえると思う。	・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	○定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定する。 ○これまで作成された電子媒体の有効活用を行う。 ○時間外の時間について、月の途中で振り返りを行い、具体的な手立てを考える時間を設定する。	B	・定時退勤日や学校閉庁日、部活動休養日の設定により、勤務時間の削減ができていた。また、PTA行事等の参加を分担することにより、時間外勤務の回数が削減された。	A	・アンケート結果では83%が業務効率化できたと回答している。前年比5%アップした。また、退勤時間が前年度比で平均で約1.5時間早くなった。	A	・先生方も忙しい中で、業務に取り組まれている。部活動にも熱心に参加していただいて、大変だと思う。指導に感謝している。	管理職
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	○朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 ○時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。	B	・朝礼やケース会議の実施、日ごとのコミュニケーションにより、連絡事項はもれなく伝達できている。 ・一方で、雑談の中での学年間の生徒の情報共有や学年を超えた連携などについては連携して協働することが不足している。全教員間のビジョンの共有が必要。	A	・アンケート結果で「本校は明るい職場環境であり、教師力の向上に努める職員集団になっている」と回答した割合が100%であった。今後はチームミーティング等の機会を増やすとともに、さらなるビジョンの共有や意識が必要である。	A	・先生方が使命感をもって指導していることに感謝したい。	管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○タブレットPCを使った学習時間を年間100回以上行う。	○タブレットPCを使った学習については、掃除終了後に全学級確実に実施している。 ○電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。	B	・掃除終了後に15分間のタブレットドリルの時間を設定し、実施している。 ・ICTオーブンデーに3教科の授業公開を行った。今後は有効活用について研修を継続していく。	A	・生徒アンケート結果で、「わかりやすい授業にするためにICT機器を積極的に使っていると思いますか。」の項目で、89.8%の回答があり、有効活用できている。 ・臨時休校などでは、スムーズにオンライン授業の実施ができた。	A	・リモートでの指導は大変だったと思う。 ・ICTの活用がますます重要になってくると思われる。大変だと思うが効果に期待をしている。	・情報教育推進教員
○地域と学校の協働による学校づくり	○地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	○地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ○情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	○学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 ○学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ○学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。	A	・学校運営協議会を実施した。また、12月には特別非常勤講師による郷土学習を実施予定。 ・学校HPをほぼ毎日更新したり、メールや学校、学級だより等を発信、発行したりすることで、常に新しい情報を保護者や地域社会等に提供することができた。	A	・地域の指導者による確信体験を実施した。90%以上の生徒が「興味をもって活動することができた」と回答し、充実した体験学習を実施することができた。 ・学校HPを週2回は更新するとともに、配信メールで時機に応じた情報配信を行った。また、学校・学級だよりも定期的に配布し、情報提供に努めた。	A	・町の伝統芸能の継承を考えた確信指導には感謝したい。 ・学校の責任ではないが、新型コロナウイルス感染症のため、地域交流があまりできていない。次年度はぜひ、活発に地域交流を行ってほしい。	・教務主任 ・教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	評価項目の12項目中11項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である1項目については、以下のようにして改善を図っていく。 ・学校での学習を効果的なものにするため、家庭学習を充実させる。そのために、家庭での課題の取り組み方を示したり、タイムマネジメント能力、自己調整能力を向上させるための指導を行ったりしていく。 その他、今後より力点を置いて指導すべき内容として、以下のような取り組みを行っていく。 ・生徒が夢や目標をもって何事にも取り組むことができるように、総合的な学習の時間や学校行事をこれまで以上に充実させる。また、自己実現に向けて、生徒が自己肯定感を高めるためのスキルを教職員が身につけていく。 ・思考力・判断力・表現力を高めるために、協働学習に取り組ませるとともに、校内研修等で効果的な協働学習の方法について習得する。
----------------	---